

郷土資料館だより

Vol.42 No.1

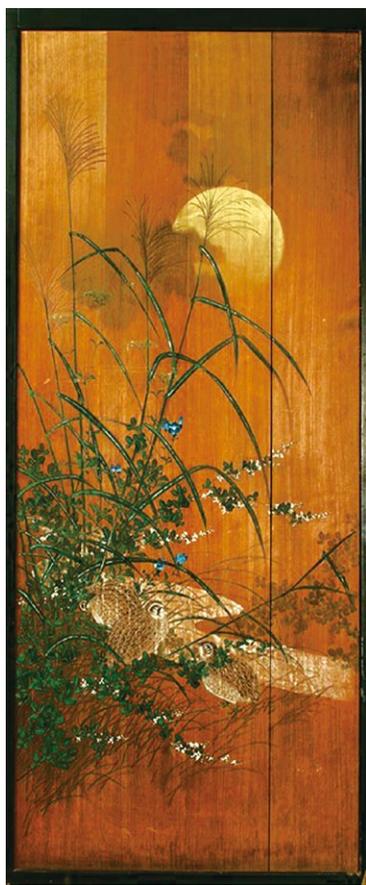
2019.8.1

「バック・トゥ・ザ・ミシママチ！」開催中

●開催期間 平成31年4月27日(土)～令和元年9月1日(日)

1階企画展示室において開催中の収蔵品展「バック・トゥ・ザ・ミシママチ！」では、江戸時代の宿場資料や三嶋暦、小松宮彰仁親王ゆかりの明治の芸術作品・梅御殿の杉戸絵、郷土が生んだ人形作家・野口三四郎の作品など、当館所蔵の代表的な資料を展示しています。今回は展示資料の中から、7月以降に展示した、季節にちなんだ美術作品を紹介します。

●秋の風景を描いた、明治の美



▲草野龍雲「秋草鶉図」

現在の楽寿園は、明治時代に小松宮彰仁親王の別邸として整備されたことに端を発します。現在三島市の所有として現存する別邸の建造物（楽寿館、梅御殿）のうち、梅御殿に飾られていた杉戸絵6面を郷土資料館に収蔵しています。

杉戸絵とは、書院造や数寄屋造の建物の広縁（部屋の周囲にめぐらせる通路）などに設けられた、仕切りのための戸板（杉戸）に絵を描いたものです。楽寿館・梅御殿にしつらえられた杉戸絵をはじめとする絵画は、皇室技芸員（当代一流の優れた美術家が選ばれ、下命を受けて皇室の美術工芸品の制作等に当たった）をはじめ、明治時代中期の日本を代表するようすぐれた絵師たちによって手がけられました。これらの美術品が室内を彩る建物は、宮家の別邸らしく贅を凝らしたものだといえるでしょう。

今回展示する杉戸絵は「秋草鶉図」と呼ばれるもので、薄・桔梗・萩・女郎花の茂みに隠れるように遊ぶ3羽の鶉と、おそらく中秋の名月と思われる満月が描かれています。この絵は梅御殿東側の廊下を仕切る場所に設けられていたもので、梅御殿東側の庭と一体となって秋の月見を彩ったことでしょう。

作者の草野龍雲は、岸竹堂に学んだ岸派の画家です。龍雲の作品として確認されているものは少なく、詳しい画歴等はわかりませんが、京都・仁和寺所蔵の彰仁親王の肖像も手がけています（彰仁親王は幕末まで同寺の第30世門跡であった）。龍雲は「秋草鶉図」以外にも梅御殿の杉戸絵と襖絵を複数手がけており、彰仁親王との深い関係がうかがえます。

おまちかね！「ミュージアム・フェスタ」いよいよ開催決定！

郷土資料館では、9月29日(日)に全館まるごとお楽しみでいっぱい「三島市郷土資料館ミュージアム・フェスタ」を開催します！

月に数回開催している体験イベント「郷土教室」の人気プログラムなどを、なんと一日でたくさん体験できちゃうお祭りです。作って・学んで・楽しめる！郷土資料館の魅力がいっばいつまった一日は、まさに「資料館の文化祭」！ご家族そろってぜひご参加ください。

内容：ブンブンごま作り、昔の“あいうえお”であそぼう、楽寿園ストーン・ラリー、みしまの歴史クイズ etc

詳しい内容はホームページや広報で順次公開！忘れず Check it out!!

郷土教室の報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる郷土教室（体験イベント）をボランティアさんと一緒に開催しています。2019年2月から6月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内容	参加者
2月9日（土）	昔のどうぐ	石臼・鯉節削り・製麺機の使用体験	69人
2月23日（土）	遊んで学ぼう富士山デー	富士山にちなんだカルタ遊びや溶岩の観察、楽寿園内の溶岩巡りツアー	142人
3月9日（土）	江戸時代の三島宿	立版古作り、三島宿展示のガイド	84人
5月4日（土祝）	こま・けん玉あそび	学芸員とコマ・けん玉対決	42人
5月5日（日祝）	こどもの日体験デー	鯉のぼり・カブトの紙工作	157人
5月18日（土）	古代のくらし	勾玉づくり、火おこし体験、土器あてクイズに挑戦	94人
6月1日（土）	昔のくらし	懐かしい道具を見ながら、昔を思い出してみる（回想法）	68人



富士山の溶岩観察



三島宿の展示ガイド



回想法

これからの郷土教室の予定

日程	郷土教室	内容
8月3日（土）	クラフト作り	楽寿園の木や枝を使って工作にチャレンジ
	機織り体験	裂き織り（古くなった布を細く裂いて織る）の体験 ★要申込（先着順、定員：10名、対象：小4以上）
8月21日（水）	楽寿園の自然	身近な材料を使った噴火実験 （荒天中止、①10時半～／②13時半～の2回、各30分程度）
8月22日（木）	紙漉き体験	紙を漉いてハガキをつくろう！ 協力：三島ゆうすい会
9月7日（土）	昔のあそび	ブンブンごま作り、コマ・けん玉あそび
9月21日（土）	江戸時代の三島宿	三島の昔話を紙芝居で上演、三島宿展示を中心としたガイド

今年も楽しい体験イベント盛りだくさん！夏休み中もやってるよ！郷土資料館に遊びに来てね！

次回企画展 9月21日（土）～12月15日（日）

箱根八里日本遺産認定1周年記念

企画展「絵図・古文書で見る箱根八里」

江戸時代の陸上交通の要、東海道随一の難所「箱根八里」。旅人や伝馬てんま役を果たした地元住民の目から難所の実相に迫ります。箱根八里クイズ（プレゼントあり）、箱根東坂ウォーキング、講演会、展示解説など関連企画も多数用意しています。

三嶋大社の古文書を読み解く 7

◆源頼家筆般若心経 ～青年将軍の病苦～

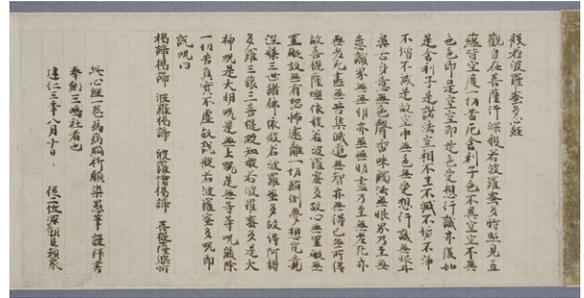
鎌倉時代初期、源頼家筆となる「紙本墨書般若心経」（建仁3年8月10日付）です。第1回（第118号）で触れましたが、この般若心経は、他の古文書とは別に単独で重要文化財に指定されています。現存する頼家唯一の自筆文書であることが、その理由です。般若心経とは、般若波羅蜜陀心経のこと。短い経文ですが、大乘仏教の心髄が説かれているとされ、複数の宗派が読誦経典として用いています。読みや解釈については、一般書にもありますからそちらに譲りましょう。

ここでは古文書の背景に触れます。注目は、経文の奥書部分です。「此の心経一卷、病腦祈願のため、愚筆を染め謹みて拜書し、三嶋社に奉納するものなり」。頼家が病氣平癒を祈って写経し、三嶋大社に奉納したものとわかります。

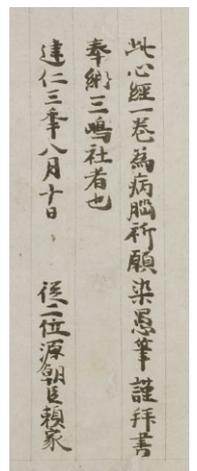
鎌倉幕府創業のカリスマ、源頼朝が死去するのは、正治元年（1199）1月のこと。頼家は鎌倉政権の二代目の主として擁立され、3年後の建仁2年（1202）7月には征夷大将軍に補任、名実ともに鎌倉を代表する権力者となりました。しかしその治世は短く建仁3年9月に失脚、翌4年7月、23歳で世を去ります。写経には失脚の直前、建仁3年8月10日の日付があります。『吾妻鏡』によれば、頼家の発病は7月20日のこと。それは重篤だったようで、病状の進んだ8月27日、国内惣守護職と東国28か国の地頭職を息子の千幡（実朝）に譲るといふ決定がなされます。一幡の外祖父で頼家の養育役であった比企能員は千幡への譲りに不満をもち、千幡の養育役で決定を主導した北条時政を討とうとしますが、逆に時政によって殺害されます。また比企一族は北条政子の命をうけた追討軍により一幡もろとも討ち取られました。それが9月2日のこと。9月5日、病より回復した頼家はその事変を知り、時政を討とうとしますが、直ちに政子の命で出家させられ、9月29日、伊豆修禅寺に追放されました。京都の公家、近衛家実の日記によると、9月7日朝には後鳥羽院のもとに鎌倉から一報が届いています。家実が伝え聞くところでは、9月1日に頼家が死去し、次いで擁されたのは弟の千幡（実朝）。2日には一幡と比企が討たれたとのことでした。おそらく、頼家の死去に乗じて謀叛を企てた比企一党を討った、とでも報告したのでしょう。この時、頼家は生きながら亡き者とされていたのです。

一般に頼家への印象はあまりよろしくないように感じますが、これは基本史料である『吾妻鏡』に頼家の瑕疵や不行跡とも取れる行為が度々記されることに起因するのでしょう。例えば、安達景盛の愛妾を横取りし、景盛と闘争寸前になる。有力御家人の所領を削減しようとして反発される。蹴鞠に明け暮れ政務を疎かにし意見される。所どころ非難がましき記事が出てきて、勢い頼家の資質に疑問を抱かざるを得なくなります。果ては巫女を通した不吉な託宣があり、鶴岡八幡宮で怪異が続いた後、頼家が病魔に倒れるのです。「霊神による祟り」という占いの結果まで記されていて、頼家の没落には人知を越えた力が影響しているかの如くです。『吾妻鏡』の編纂には、北条氏が関わっていますから、その行為を正当化する記述となるのは当然。比企氏の肅正も、比企側が先に仕掛けようとしたためとしますが、果たしてどうでしょう。明らかなのは、頼家も比企一党も、頼朝以後の後継に関わる争いで排斥され、死後も記録の上で貶らされているということです。

さて、写経の紙面に戻りましょう。小さな文字が並びますが、几帳面で丁寧な運筆を見て取れます。病苦にありながら一文字一文字しっかりと書き進める様子が目に浮かびます。さらに儼然たる政局とも対峙する青年将軍、その心根にいかなる思いが去来したのでしょうか。なお翌年の頼家の死は、暗殺と噂されました。



▲冒頭部分



▲奥書

（郷土資料館運営委員・奥村徹也／三嶋大社宝物館学芸員）

三島の歴史とジオポイント 16

—— 御殿神社 ——

本社は三島市の中心地・南本町 20-29、湧水河川御殿川の侵食崖の縁に鎮座する稲荷神社です。当初は御殿川畔に祀られていました。現在地に鎮座したのは明治 12 年です。神社の南側一帯は「御殿地」とも呼ばれ、これが神社名の由来です。

「御殿地」は東海道が通る北側以外の三方を御殿川と四ノ宮川に囲まれ、比高約 3 m の侵食谷が天然の堀となっています。元和 9 (1623) 年、三代将軍家光の上洛時の宿泊場所として御殿が造られた場所です。当時はまだ参勤交代が始まる前で、本陣もありませんでした。しかしこの時には使用されず、将軍が実際に宿泊したのは寛永 11 (1634) 年の上洛時のみです。

その後、御殿は使用されず消滅し、元禄 3 (1690) 年の古文書では畑となっています。幕末に描かれた「御殿跡之図」には、二ノ丸に稲荷神社と山神社が認められます。明治 20 年の地形図では絵図の若干北東側の現在地に社殿が確認できます。

絵図に描かれている神社は、御殿築造時に御殿川畔にあった稲荷社を御殿の守護神として祀ったか、御殿が消滅した後、空き地に三島宿の住民が移設したかのどちらかでしょう。その後、明治 12 年に現在地に移設されました。

神社の鳥居は鉄筋の入った人造石製で、鉄筋の錆が目立ちます。大正 15 年に設置された神社名碑は三島溶岩製です（現在の日本大学東側の大場川沿いにあった「小堰の石切り場」産）。

玉垣はカラフルな火山角礫の入った「小室石」（伊豆の国市・小室の石切り場産）で作られています。玉垣の基礎や階段は三島溶岩製です。

左右の石燈籠は、明治 3 年「献燈」とありますから、当社に奉納されたものです。長岡凝灰岩上部層製（伊豆の国市・北江間産）ですが、左の燈籠の火袋は新しい同材で作直してあります。昭和 5 年の北伊豆地震で壊れたのでしよう。

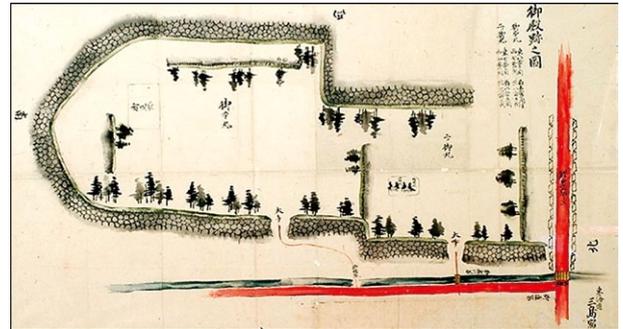
境内の左手には宝珠と笠を欠く石燈籠があります。文化 6 (1809) 年「常夜燈」とあるので、江戸後期に東海道に置かれた常夜燈です。不要になったので移築されたものです。火袋は小室石で作直してあります。

境内右手の手水鉢は、北江間付近から産出した第三系の安山岩（数百万年前の火山体）で作られています。大正 14 年に奉納されました。

拜殿の基礎は人造石研ぎ出し製、本殿の基礎は第三系の安山岩ですが、比較的最近整備されたようです。

本社は街中の小社ですが、管理が十分行き届いています。氏子の方々が大切にされていることがよく分かります。

(郷土資料館運営委員・増島淳)



「御殿跡之図」三島市郷土資料館蔵



御殿地付近の地形図(明治20年)枠内が上図の範囲

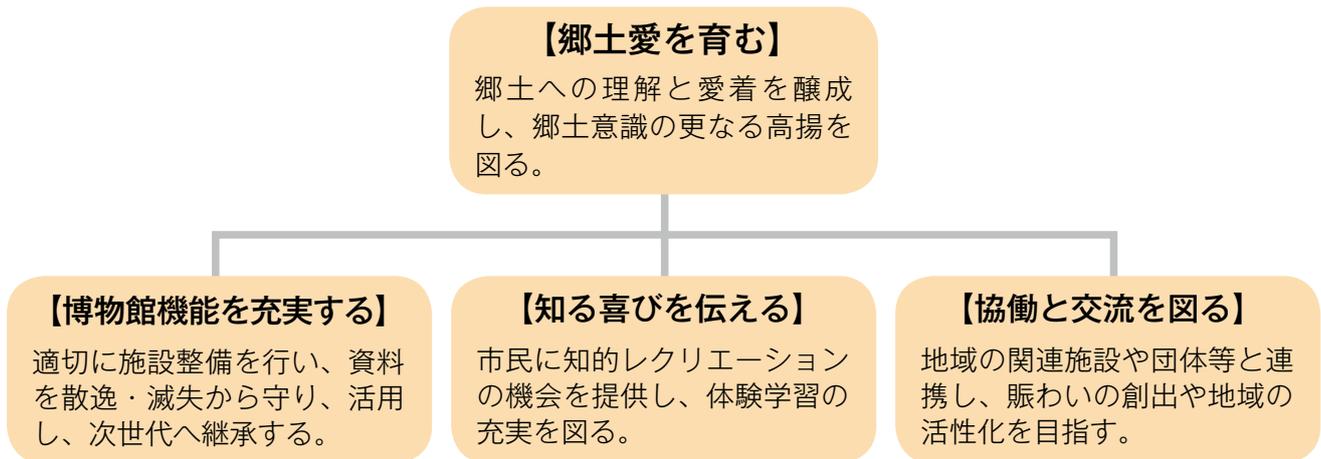


正面から見た御殿神社

郷土資料館リニューアル 5年間の事業結果報告

郷土資料館は平成24～25年度に約2.5億円をかけて耐震補強工事と展示等のリニューアルを行い、平成25年11月1日にリニューアルオープンしました。「郷土愛を育む」ことを目的とした基本方針を策定し、展示から体験重視へ事業の転換を図るとともに、5年後の数値目標を立てて様々な事業に取り組んできました。平成30年度はリニューアルから5年目にあたります。ボランティアのみなさんとの協働や他団体・市の他部署との連携などにより一定の成果を得ることができましたので報告します。

リニューアルの意義と目的



リニューアルオープンから5年後の目標と実績

- ① 年間入館者数6万人（平成22年度実績47,363人の約20%増）
- ② 教育普及事業年間参加者数1,000人（平成22年度実績172人の約5倍）
- ③ 団体入館年間受入数30団体（平成22年度実績8団体の約4倍）

	H22	H26	H27	H28	H29	H30	目標	達成状況
入館者数	47,363	48,026	59,395	69,798	65,930	63,702	60,000	○
教育普及事業参加者数	172	1,227	1,524	1,838	1,992	2,174	1,000	○
団体受入数	8	21	26	28	26	33	30	○

平成24年度に活動を立ち上げた郷土資料館ボランティアはその後、会員の追加募集や活動の拡充を重ねてきました。現在では郷土教室の開催・館所蔵古文書の整理・地域の石造物の調査といった諸事業を館との協働で進めています。予算・人員が貧弱な郷土資料館がここまで事業を充実させることができたのはボランティアのみなさんとの協働の成果です。小学校などの団体見学でも可能な限り体験メニューをそろえることで受入数を増やすことができました。また、オンラインゲーム「刀剣乱舞」のスタンプラリーへの参加などによりこれまでとは異なる様々な方に来館していただくことができました。これらの結果、展示だけではなく体験を重視する、という方向性に則った目標を達成することができました。

郷土資料館では地域の貴重な文化資源である古文書や石造物などの文化財の散逸に対応することを近年の大きな課題と認識しています。その端緒として平成28年度に「三島地域資料研究会」を立ち上げ、3年間文化庁の助成を受けて地域の文化財保存活用事業を実施しました。今後は地域の中にある博物館として地域の文化財の散逸を防ぎ、地域の文化資源の把握と活用を進めていくための事業にも力を注いでいきます。

平成30年度 郷土資料館事業報告

●企画展

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「新規収蔵品展—三島の明治から昭和—」	平成30年2月24日(土) ～6月3日(日)	平成27年～29年の間に、市民の皆様から寄贈していただいた歴史・民俗・美術資料と、郷土資料館が購入した歴史資料を展示。	2/24～3/31 6,176人 4/1～6/3 10,928人 合計 17,104人
	関連事業：展示解説(4/28、5/20)計36人		
明治150年富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「幕末・明治の富士・沼津・三島」三島展「近代三島をつくった人々」	前期：政治・教育編 6月23日(土) ～9月24日(月)祝	新たな時代をつくった地域の人々にスポットをあて、幕末・明治期の三島を紹介。	12,995人
	後期：経済・文化編 10月13日(土) ～1月3日(木)		13,711人
関連事業：スタンプラリー景品交換者91人、講演会(10/13、28、11/11)66人、郷土教室(9/15、11/3、11/17)55人、ふるさと講座(11/1)24人、ギャラリートーク(7/15、8/18、11/25、12/1)38人			
三島市・刀剣乱舞—ONLINE—コラボレーション企画「刀剣乱舞—ONLINE—真剣展示 IN 三島」	1月8日(火) ～2月24日(日)	PCブラウザ&スマホ向けゲーム「刀剣乱舞—ONLINE—」とのコラボレーション企画の一環として、復元刀を展示。(主催：三島市、三島市教育委員会)	15,637人
C58322 展	3月5日(火) ～3月17日(日)	郷土資料館のすぐ近くに静態展示されている蒸気機関車C58に関する展示。(主催：楽寿園)	3,072人

●その他の展示 三嶋曆師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」

●教室・講座・講演会

講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数	
郷土教室	こどもの日体験デー	5月5日(土)祝	90人	昔のあそび	10月14日(日)	62人
	三島の昔の紙芝居	5月26日(土)	61人	昔のどうぐ	10月20日(土)	47人
	江戸時代の三島宿	6月30日(土)	39人	明治のペーパークラフト! 「立版古」をつくろう	11月3日(土)祝	36人
	古代の暮らし	7月14日(土)	51人	コンデンスミルクとバターをつくろう!	11月17日(土)	15人
	昔の暮らし(回想法)	7月29日(日)	43人	昔の暮らし(回想法)	11月23日(金)祝	250人
	機織り体験 講師：杉山洋子氏 (ギャラリーあさひ)	7月29日(日)	2人	江戸時代の三島曆	11月23日(金)祝	169人
	クラフトづくり	8月4日(土)	55人	わら細工	12月8日(土)	99人
	紙漉き体験 協力：三島ゆうすい会	8月23日(木)	62人	リアン編み	1月19日(土)	12人
	楽寿園の自然	8月25日(土)	60人	昔のどうぐ	2月9日(土)	69人
	楽寿園の自然	9月1日(土)	83人	遊んで学ぼう富士山デー	2月23日(土)	142人
	紙で幻灯機をつくろう	9月15日(土)	4人	江戸時代の三島宿	3月9日(土)	84人
郷土教室合計 22回、参加者 1,535人						
講座	ふるさと講座 「伊豆半島ジオパーク探訪⑥」 講師：増島 淳氏 (静岡県地学会東部支部長)	5月31日(木)	25人	ふるさと講座 「明治の石碑めぐりツアー」 講師：館職員	11月1日(木)	24人

●地域資料研究会主催

講演会名	開催日	人数	講師
① 「幕末・近代三島の教育～並河誠所と福井雪水～」	10月13日(土)	29人	伊豆の国市文化財保護審議会 副会長 桜井 祥行氏
② 「伊豆国における国会開設署名運動—南北伊豆の視点から—」	10月28日(日)	14人	下田市史編さん室 高橋 廣明氏
③ 「近代三島をつくった人脈をさぐる」、「明治期三島の酪農・乳加工業—花島兵右衛門の功績—」	11月11日(日)	23人	館職員2名

講演会名		開催日	人数	講師	
郷土資料館ボランティア養成講座	①	オリエンテーション・郷土資料館を知ろう	7月22日(日)	21人	館職員
	②	ESD(持続可能な開発のための教育)について 一気づきを促す魅力あるプログラムづくり	8月5日(日)	28人	関東地方ESD活動支援センター 伊藤 博隆氏
	③	三島の文化財を知ろう	9月9日(日)	25人	郷土資料館運営協議会委員長、 市文化財保護審議委員 迫田 信行氏
	④	江戸時代の三島を知ろう	9月30日(日)	25人	郷土史家、伊豆史談会幹事 関 守敏氏
	⑤	近世の古文書入門	11月4日(日)	26人	富士市民部文化振興課 井坂 武男氏
	⑥	館外視察研修	2月7日(木)	33人	登呂博物館 ふじのくに地球環境史ミュージアム
文化財ボランティア活動					
地域の文化財調査、古文書の整理・調査を行う。 ◆石造物調査事業 (年間10回延べ132人参加) 毎月1回、梅名・安久地区(完了)、大場地区(継続) ◆古文書整理事業 (年間18回延べ234人参加) 毎月1～2回、的場贄川家文書・安久秋山家文書の整理					

●団体見学

33件 1,563人 (市内小学校14件、市外小学校6件、その他13件)

●資料の収集、保管状況

平成30年度末現在収蔵資料総数 43,570点 (民俗 6,639点、歴史 36,159点、美術 737点、自然 35点)

平成30年度新規受入資料数 23件 (内訳：寄贈 16件、購入 7件)

●刊行物

「郷土資料館だより」121～123号

図録『近代三島をつくった人々』

『三島宿関係史料集』10 (三島問屋場・町役場文書)

『三島市郷土資料館所蔵 的場贄川家文書仮目録』1 (三島地域資料研究会編)

『三島市郷土資料館研究報告』11

『三島の石造物』1 梅名・安久 (三島地域資料研究会編)

『市民と郷土資料館の協働による地域の文化財保存活用事業 実施報告書』 (三島地域資料研究会編)

●平成30年度 開館日数 312日 入館者数 63,702人

ふるさと講座「伊豆半島ジオパーク探訪⑦」報告

●開催日時 令和元年5月29日(水) 午前8時30分～午後5時

●講師 静岡県地学会東部支部長 増島 淳先生

●見学地 「伊豆半島ジオパーク」に登録された南伊豆エリアを中心とするジオサイト4ヶ所 (白濱神社、石廊崎オーシャンパーク、龍宮窟・サンドスキー場、恵比寿島)

●参加者 25人

平成24年度以来の好評を受け、本年度も増島淳先生のご案内のもと「伊豆半島ジオパーク探訪」を実施しました。今回は7回目となり、昨年同様定員を上回る多数のご応募をいただきました。

当日はいずれの見学地でも伊豆半島の大地がたどった壮大な歴史の跡をはっきりと目にすることができました。参加された方々は熱心に聞き入り、終了後には参加者からは、「先生の丁寧な説明が非常に勉強になりました。」「龍宮窟の成り立ち、恵比寿島、石廊崎のタフォニ等、先生の説明付きで受講できたことがとてもよかったです。」「恵比寿島の地層がとても印象に残りました。」といった感想をお寄せいただきました。



白濱神社



龍宮窟

寄贈・購入資料の紹介

平成31年3月から令和元年6月までに、次の方々から貴重な資料ご寄贈のご協力をいただきました。お礼申し上げます（お名前の掲載を希望されない方は、個人名を伏せて表記してあります）。また新たに1点の資料を購入しました。

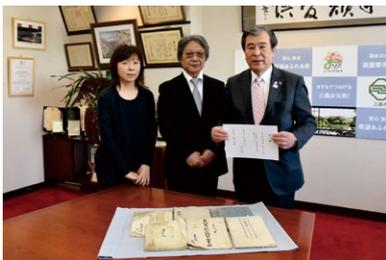
●寄贈資料

寄贈者	資料名	点数
個人(三島市)	絵葉書「三島町三島大社神園内魚半亭」(明治末～大正頃)、絵葉書「野戦重砲兵第三聯隊」(昭和5年6月以降)	4点
杉山武臣氏(沼津市)	写真(丹那トンネル開通式)	1点
秋山信治氏(三島市)	安久秋山家文書(近世～近代資料)	約800点
越沼正氏(三島市)	写真(越沼歯科治療所、明治時代)、営業免許(明治時代)ほか	5点
Charles Moriyama氏(ハワイ)	木製プレスレット(ハワイの木材使用)、写真(プレスレット製作者工芸家平山口バート氏)	4点
高木たつ江氏(三島市)	「旅のあしあと」(記念スタンプ、五所平之助・大辻司郎他サイン)、軍人傷痕記章、支那事変従軍記章、勲八等白色桐葉章ほか	11点
小西政司氏(三島市)	東海道400年祭法被、同幕、三島茶碗文化振興会ファイル	7点
三島ゆうすい会	箱メガネ(ハコメン)	6点
個人(神奈川県)	三島町消防組画像データ(昭和5年3月以降)	1点
藤岡武雄氏(三島市)	千枚原遺跡碑関係資料(『わがまち千枚原』ほか)	12点

●購入資料

乍恐書付を以奉願上候	箱根山入会関係資料(箱根竹)、寛政5年(1793)4月、葦山御役所江川太郎左衛門宛、伊豆国田方郡軽井沢村名主・組頭・百姓代差出	1点
------------	---	----

安久秋山家文書 寄贈式の様子



左：秋山ご夫妻、右：豊岡市長

平成31年3月20日(水)、安久の秋山信治氏から三島市へ、同家に伝来する近世～近代の古文書約800点を寄贈していただきました。

この日、14時半より市長応接室で寄贈式を行い、担当学芸員から寄贈いただく古文書群の概要と特徴を説明した後、秋山ご夫妻より豊岡市長に目録が手渡されました。受贈した古文書群は「安久秋山家文書」と名づけ、郷土資料館の収蔵庫で保管し、ボランティアと協働で整理・調査を進めていく予定です。

(「安久秋山家文書」寄贈に至る経緯については前号参照)

●令和元年度職員紹介

館長 芦川忠利(郷土文化財室室長と兼務)

職員 平林研治 柿島綾子 小林高彦 笹山曜子 保科桃子
よろしくお願ひします。

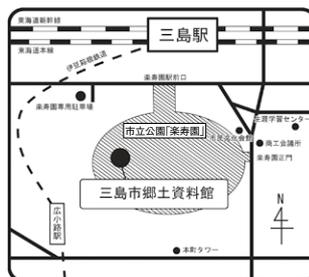
郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)
午前9時～午後4時30分(11月～3月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
300円がかかります。15歳未満は無料、
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

郷土資料館だより

Vol.42 No.1(第124号)

発行日 令和元年8月1日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

